

循環型社会形成推進地域計画に係る改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
富山地域	富山地区広域圏事務組合、富山市、滑川市、立山町、上市町、舟橋村	平成19年4月1日から平成26年3月31日	平成19年4月1日から平成26年3月31日

1 目標の達成状況

平成26年度循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書において、目標を達成できていない主な事項は、下記のとおりである。

指 標	現 状 (割合※) (平成17年度)	目 標 (A) (割合※) (平成26年度)	実 績 (B) (割合※) (平成26年度)	B / A
(1) 総資源化量	40,662 t (21.4%)	51,769 t (29.4%)	36,156 t (21.4%)	69.8 %
(2) 最終処分量	20,012 t	14,241 t	16,088 t	113.0 %

※ 排出量に対する割合

2 要因の分析

(1) 総資源化量

目標値 51,769 t (総排出量比29.4%) に対し、36,156 t (総排出量比21.4%) となった。

目標を達成できなかった要因としては、溶融スラグの需要低迷、不燃ごみの減少により鉄や非鉄金属の回収量が減少したこと、集団回収量が減少傾向にあることなどが考えられる。

また、インターネット等の普及により新聞・雑誌の購読数が減少したこと、飲料水容器のスチール缶からアルミ缶やペットボトルへの移行、それら飲料水容器並びに段ボールなど包装材の肉薄による軽量化、さらに酒類容器の一部が瓶から紙製容器に移行したことも要因として挙げられる。

(2) 最終処分量

目標値 14,241 t (総排出量比8.1%) に対し、16,088 t (総排出量比9.5%) となった。

総排出量比は、現状 (平成17年度 : 10.5%) から1割程度、減少したものの、目標を達成することはできなかった。

目標を達成できなかった主な要因としては、溶融スラグの需要が予想よりも伸びなかったことが挙げられる。

3 改善計画

(1) 総資源化量

可燃ごみや不燃ごみの中にはリサイクル可能なものがあることから、ごみの分別排出を徹底するように、ごみの出し方のパンフレットや環境イベント、ホームページ等によりこれまで以上に住民の啓発を行うとともに、小型廃家電等のリサイクルや溶融スラグの利用を推進し、総資源化量の増加を図る。

また、集団回収活動を活性化して回収量を増大させるため、報奨金制度を拡充させるなど集団回収実施団体を継続的に支援する。

さらに、近年、一部の地域で剪定枝の資源化が始められており、さらなる資源化量の増大が期待される。

(2) 最終処分量

食べ残しの削減の普及啓発などにより、ごみの総排出量を減らすとともに、上記のとおり総資源化量の増大を図り、最終処分量を減少させる。

また、富山地区広域圏リサイクルセンター（粗大ごみ処理施設）では、破碎残渣を減らすため、破碎機内のトロンメルの網目の形状を改良する試験を実施しているところであり、今後、最終処分量の削減が期待される。